

## 機装中の「シルバークリーズ」の撮影

2021-4-16 池田良穂

学会の会誌 29 号の新造船の紹介に掲載予定の「シルバークリーズ」の写真をとるために、瀬戸田(生口島)にでかけることにしました。同船は、6 月の八戸～苫小牧航路への就航に向けて内海造船の瀬戸田工場で機装中です。

この機会に、現在編集中の「日本の旅客船」のための船の写真の撮影も兼ねることにしました。伊予長浜港から沖合の青島へ通う定期船「あおしま」の写真、因島と家老渡と弓削島を結ぶ家老渡フェリーの「第3きりしま」の写真がまだありませんでした。

朝 6 時神戸発のジャンボフェリーの「こんびら 2」に乗船。週末は 8 時発なのですが、平日は 6 時発なので、高松には 10 時 45 分に到着して、伊予長浜港には 14 時過ぎには到着できました。「あおしま」の出港時間には間に合ったのですが、港には「本日午後便は欠航」との張り紙がでていました。停泊中の姿は撮れましたが、出港および入港時の雄姿は撮れませんでした。

翌朝、松山観光港での撮影を終えてから、しまなみハイウェイで生口島に行き、「シルバークリーズ」の姿をカメラに収めることができました。ドックには、東海汽船の在来船のファンネルが見えました。

生口島と因島とは、しまなみハイウェイの橋で結ばれていますが、せっかくなのでフェリーで渡ることになりました。船は、三光汽船の「第3いんのしま」。橋とほぼ平行の航路(赤崎-金山)で、航海時間は 5 分ほどでした。料金は車でもわずか 200 円で、こちらが恐縮するような低料金でした。大人料金は 80 円です。頑張っしてほしいですね。

因島に上陸して家老渡フェリーの乗場に向かいました。元日立造船の因島工場で、現 JMU の修理工場と内海造船の新造船工場等の裏側の狭い道を行くと乗場がありました。建物もなく、岸壁があるだけの船着場でした。小さな港の中には予備船の「第3きりしま」が停泊しており、しばらくすると弓削島からの「第2きりしま」が入港してきました。

近くの山の頂上の因島公園の展望台からは、素晴らしい瀬戸内海の景色が見え、造船所のドックに入る修理船や、因島の土生港に出入りするフェリーの姿を堪能することができました。



早朝、神戸港を出港する「こんびら 2」のデッキから。



神戸港の沖では RORO 貨物船「日春丸」を追い抜きました。まだ雨が完全には上がっておらず雲が多い状態でした。



明石海峡大橋付近で名門大洋フェリーの「フェリーおおさかⅡ」と反航しました。



備讃瀬戸で RORO 貨物船「Pioneer A」と反航しました。



高松が近づいたころ、東に向かうケミカルタンカー「鶴秀丸」と、小豆島から高松に向かう「第 32 こくさい丸」の姿が見ました。



高速旅客船「バルカ・エオイカ」が疾走しているのが見えました。



高松東港の港内では LPG タンカー「岐山」が、ちょうどこのタンク搭載中でした。



10 時 45 分、「こんぴら 2」は、4 時間半余りの航海を終え、高松東港に到着しました。



伊予長浜港には、目的の青島航路定期船「あおしま」が停泊していましたが、この日の午後便は波が高く欠航でした。



松山の三津浜港に入港する中島汽船の「じんわ」です。石崎汽船グループに入って船体塗装が白一色になりました。



翌朝の撮影は松山観光港から開始しました。石崎汽船の3隻がファイnderに収まりました。いずれも白一色にブルーの文字という石崎カラーになりました。手前から広島航路の高速船「翔光」「瑞光」、奥が小倉航路の夜行便「フェリーくるしま」です。



中島汽船の高速船「すいせい」と、興居島発の「ミソラ」が観光港の前で交差しました。いずれも松山の高浜港に向かっていきます。



高浜港を出た中島汽船の「ななしま」が観光港の前を通過していきました。中島を反時計回りに航海します。



広島/呉から入港する「シーパセオ2」と、呉/広島に向けて出港する「翔光」です。



松山観光港に入港する「シーパセオ2」の姿です。



内海造船で艀装中の「シルバーブリーズ」です。6月から八戸～苫小牧航路に就航します。楽しみですすね!!



内海造船瀬戸田工場の全景です。左にドックに入った東海汽船の在来船のファンネルが見えました。



生口島の赤崎から因島の金山へはフェリー「第3いんのしま」で渡りました。



金山 ↔ 赤崎		金山～赤崎片道運賃表
運賃表		
普通車・軽自動車		200円
自転車(人込み)	大人	130円
	小児	90円
125cc未満(人込み)		160円
750cc未満(人込み)		190円
750cc以上(人込み)		200円
大人		80円
小児		40円

乗船料は普通車で200円という安さでした。



家老渡フェリーの乗場には、予備船の「第 3 きりしま」がつながれていました。後ろに見える建物は日立造船系の船用機器メーカーアイメックスの工場のようなです。



家老渡フェリーの「第 2 きりしま」が弓削島から入港してきました。



家老渡フェリーの岸壁から JMU で修理中の捕鯨母船の姿が見えました。



内海造船の因島工場の船台には、進水間際らしい RORO 船の姿がありました。この船台で、宮崎カーフェリーの新造船の建造が始まるのでしょうか。こちらも楽しみです。



因島の土生港の裏の山上の展望台からは絶景でした。一番下の写真の、手前の島が生名島、奥の高い山があるのが岩城島です。



因島と生名島を結ぶフェリーも眼下に見えました。生名島の立石港に到着する「いきな」と、新造フェリーらしき「ゆめしま」の姿が見えました。



因島と岩城島を結ぶ長江フェリーの「第 8 おおしま」が、狭い水道を抜けて航行中で、この後、左に針路を変えて岩城島に向かいます。手前が因島の土生、右が鶴島、左が生名島。正面の中ほどに広がるのが平内島で、奥が生口島です。